



〒211-0035 神奈川県川崎市中原区井田3-10-31(公財)現代人形劇センター

TEL: 044-777-2228 / FAX: 044-777-3570

E-mail: deaf@puppet.or.jp / URL: http://deaf.puppet.or.jp/



日々制作...

by 大里千尋

制作をしていて、地域に実行委員会をつくることは、子どもが誕生するみたいに奇跡のようなことだなーと常に感じています。

結成以来「650地域」での公演ということのすごさと重みを感じながら、少しずつではありますが私たちの活動が地域で新しいつながりが生まれるきっかけになれば、という思いで制作をしています。

今回は私が居合わせた新たな出会いのご紹介を一つ。

今年9月21日の岩手県宮古市の公演は、宮古市圏域の福祉関係のご活動をされている団体さんや、岩手県聴覚障害者協会さん、手話サークルさんなどで構成された実行委員会が主催です。

そこに同じ宮古市で活動する、震災で仕事を失った方のための新しい仕事づくりのプロジェクトとして、編み物が得意なお母さんたちを中心に立ち上がった「愛編む宮古」さんが出会いました。

今回の宮古市の公演のときに、「森と夜と世界の果てへの旅」の中に出てくるキャラクターをニットで商品化して販売しようと考えています。

お話を進める中で、公演実行委員会の構成団体の一つである、障がい者の就労支援事業を中心に活動をされているアトリエSUNさんで、これから愛編む宮古さんの商品を委託販売することになりました。

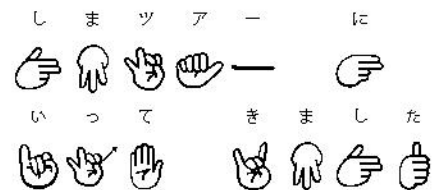
震災後から活動を始めた愛編む宮古さんにとって、今回地元で初めて、他の事業所とのつながりがもてるようになり、とても嬉しく喜んでいるとお声をいただき、新たなつながりの場に居合わせることができたことにこちらも嬉しくなりました。

出会うことでつながります。
その出会いの架け橋になりたい。

デフ・パペットシアター・ひとみの思いはずっとかわりません。



by 大木翔吾



けそーめっかりもうさん(種子島弁で「おはようございます」)。制作担当のボンちゃんこと大木翔吾です。

6月に、僕たちデフ・パペットシアター・ひとみは『第2弾！ 諸島公演ツアー』に行ってきました。今回のツアーは鹿児島県・種子島、沖縄県・石垣島。ちなみに第1弾は去年、長崎県・杵岐、鹿児島県・屋久島、島根県・中ノ島。いずれも、僕たちデフパペを愛し受け入れて下さる実行委員さん達のおかげで、無事に公演を終えることができました。ありがとうございます！

今回の企画目的の一つに「島に住む聴者に、ろう者・手話と出会うきっかけをお届けする事」があります。ほとんどの島にはろう学校が無いという事情もあり、島の聴者の多くは「ろう者に会ったことが無い。」「手話を見たことがあるのはテレビでだけ。」という状況です。現在、日本各地で手話言語法・条例制定の動きが活発です。でも、手話言語法・条例が制定されたその日から、皆が一斉に手話を始めるという事はあり得ません。制定後にも長い長い道のりが待っています。

僕たちの人形劇は「聞こえない・聞こえるに関わらず楽しめる」という事にこだわっています。そんな僕らの人形劇が、ろう者と聴者が出会うきっかけの場になれば幸いです。

今後は10月に島根県・隠岐の島、11月に島根県・西ノ島公演を控え、さらには瀬戸内海の島での公演も計画しています。本土にお住まいの方も、ぜひ観劇にお出でください。皆様と出会う日を楽しみにしております。

3ヶ月に一度のこんにちわ

「旅に行こう」 by 善岡修

先日、猛暑日のさなか広島でワークショップをやった。
 その大学は、大人が登るにも大変な丘の上であって、
 急な坂を炎天下の中、登らなければならない。
 ワークショップが始まる前の早い段階から、
 小学生の女の子が一番乗りで、開場前から待っていました。
 小学5年生ぐらいの轟の女の子で、
 以前からこのワークショップに参加することを楽しみにしていたこと。
 それと、丘の上にある大学まで徒歩で上ってきたこと。
 ここまでの道のり大変だったー！と興奮しながらの笑顔で、
 話してくれた。
 険しい道のりを超えた後のワークショップは、
 その子にとって、ワークショップだけでなく、
 往復の道のりもセットになって、印象深い夏休みになったことでしょう。

前日の横浜での「森たび」公演で、デフパペの虜になってしまったファンが、
 はるばる離れた石垣島公演や種子島公演まで、追っかけてくれた。
 こちらも遠く離れた南の島での公演で、
 駆けつけてくれたファンに出会うと、その応援が後押しして元気になる！
 同じ空気を吸う事で、私たちはつながっている！と。

旅のきっかけは、たいていは、ほんの小さな出来事から生まれる。
 デフパペの公演を見に旅をすること。
 旨いやし酒を目当てに旅をすること。
 そこでしか食べれないご当地グルメを味わいに旅をすること。
 応援しているサッカーチームのサポーターとして旅をすること。
 そこへいくと開運するということに旅をすること。
 映画やドラマでやっていたロケ地が気になって、
 主人公と同じ空気を吸いに旅をすること。

旅に行こう！というきっかけは、ビビビ！とくる
 ほんの小さな予感を信じて、そこに行き着くまでの旅を楽しむ。
 そして、行きの旅と帰りの旅の自分の持つココロの変化を実感し、
 ココロのお土産が溢れかえる。
 (溢れかえるから、周りの人におすそわけすることもあるけれども)

私たちの旅公演も行きと帰りで、
 窓から眺める富士山が、今日はちょっと大きく見えていると感じる。

★新人紹介★

はじめまして。
 4月からデフの制作をしています、
 吉村衣世と申します。



ろうの世界も、制作のお仕事も初めてなので、未熟さをひしひしと感じておりますが、4か月経った今、手話と人形劇の楽しさにメロメロでございます。もっといろいろな人にデフの事を知ってほしいと感じます。

わたしは今年の3月に京都の大学を卒業しました。大学時代はひたすら木でヒトを彫っていたのですが、木という素材はどこまでリアルに彫刻しても、木であることには変わりありません。人形も、どこまで人間らしく動いても人間ではないのですが、両者とも、ふとした時にまったく人間らしくて、大げさですが魔法がかかったかように感じる場合があります。想像する余地というか、隙があることは、とても気持ちが良いものだと思います。

今月のはじめに亡くなったロビン・ウィリアムズの主演映画「パッチアダムズ」の中に素敵な言葉があったので、ここで拝借させていただきます。

「誰もが見ないものを見るんだ。恐れや既成概念や怠惰とかで、人が見ようとしなないものを見るんだ。世界を新しい視点で見直せば、そこに真実がある。」

今までひとつの方向でしか見れなかったことを、今までとは違った切り口で見る。見る人に想像する隙を残してくれる人形劇には、その可能性が大いにあると感じます。

へたくそな文章ですみませんが、いつかまた皆さんにお会いして、お話しできるように、人形劇の魅力がもっと伝えられるように日本語も手話も頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

公演スケジュール

8月～11月(8月20日現在)

「森と夜と世界の果てへの旅」

- 9月19日(金) 福島県郡山市 郡山市民文化センター (開演19:00)
- 9月20日(土) 宮城県名取市 名取市文化会館(開演14:00)
- 9月21日(日) 岩手県宮古市 宮古市立宮古小学校 (開演13:30)
- 9月27日(土) 青森県青森市 県民福祉プラザ 県民ホール (開演①13:00②17:30)
- 10月4日(土) 島根県 隠岐の島町 隠岐島文化会館
- ★10月25日(土) 富山県高岡市 高岡聴覚総合支援学校
- 11月3日(月) 鳥取県鳥取市 とりぎん文化会館・小ホール (開演10:30)

「はこ/BOXES〜じいちゃんのオルゴール♪」

- 11月16日(日) 島根県西ノ島町 ノアホール
- ※★15日「音・おと・オト・・・OTOのワークショップ」あり
- ★11月25日(火) 茨城県 筑西市関城小学校
- ★11月26日(水) 結城特別支援学校
- ★11月27日(木) 古河市上大野小学校
- ★11月28日(金) 坂東市長須小学校

★は学校公演です。
 観劇ご希望の方は
 デフパペ事務所迄
 ご連絡下さい。

「一寸法師」

- ★11月4日(火) 大阪府大阪市 大阪市立聴覚特別支援学校
- ★11月8日(土) 長野県松本市 まつもと芸術館 小ホール

「詩を手話で語り人形(身体)で表現するワークショップ

(やなせ・榎本・牧野) キリン福祉財団助成

- ★9月18日(木)・29日(月)、10月27日(月)・30日(木)
 神奈川県 横浜ろう学校

「ワークショップ(善岡)」

- 8月29日(水) 山梨県甲府市
- 9月10日(水) 平塚市 高浜高校
- 10月18日(土) 東海中学校
- 10月26日(日) つくば市 技術大学祭

「マッキー&けいぼう パフォーマンス」

- 8月30日(土) 岡山県倉敷市
 イオンモール倉敷・セントラルコート
 ハートフル・トーク&ライブに出演
 ①11:00～11:25 ②14:30～14:55

「その他パフォーマンス」

- 10月19日(日) 静岡県沼津市 手話サークルわかば友の会
 40周年記念式典
- 11月24日(月) 横浜市緑区 みどりアートパーク
 NPO法人ぶかぶか主催「表現の市場」に参加

追加・変更される場合もありますので、詳しくは
 デフパペ事務所にお問い合わせ下さい。

次号(秋)はホームページ掲載になります

デフ・パペットシアター・ひとみ

やなせけいこ	榎本トオル	大木翔吾
善岡修	鈴木文	大里千尋
牧野英玄	末永快	吉村衣世

「人形」其の九

縄文の土偶は発見された数は一万にも及ぶという。そんなにあったのかと驚くほどの数ではない。縄文文化一万年として年間一個である。しかし土偶は地域的な偏り、時代的な消長を持った文化であるといえるだろう。

ここで私たちが気をつけなければならないのは、縄文の人形という土偶をイメージすることである。

縄文人に人形とはどういうものか、と訊ねたら、果たして土偶を挙げるだろうか。「いや、そんな人形は知らない。」という奴もいるだろう。「あるけれどもどっか遠くの奴がそういうもの作ってるよ。」土偶を縄文の人形の代表のように思い込んでいたのは、こちらの勝手である。常識的にいえば、縄文時代の人形とは草を束ねて作った、ま今でいうならば藁人形のようなものであろう。藁＝稲と考えるのは我々近代人の勝手であった。そう考えると縄文時代の人形は現代の社会の中でも立派に生きている。このことは「其の六」で紹介した通りである。

縄文時代は我々の身近に生きている。という、またいい加減なことを言っているように聞こえるかも知れないが、弥生時代より縄文時代を身近に感じている人は多いのではないかと思う。これは、弥生時代が稲作社会で現在が非稲作社会であることに影響を受けているだろう。そして非稲作社会という点では縄文時代と共通するものが意外に多いのである。ただ、大量生産という面は縄文時代には見られなかったものの、先に述べた山梨県釈迦堂遺跡などは大して広くもない地域で千個を超す土偶を作っている。

かつてその地域に密着して、それに適応した生活をしている人々は、数の数え方もよく分からないと決めつけていた。何かを数える時

「ひとつ、ふたつ、たくさん」、要するに数量の把握が単純化しているのを、これが能力が低いと決め込んでいた。

かつて北海道松前藩の役人は、アイヌ交易に際して鮭の数を誤魔化して、これを「アイヌ勘定」と称していた。そしてこれを以て「アイヌは品物の管理も計算も出来ないのだ」と、このごまかしを大っぴらに行っていた。もちろんアイヌの人たちがこれを知らない訳がない。そしてアイヌ人が気が付いていることを松前藩の役人も感づいていた。しかしここに、植民地支配の残忍さと強圧的取引の姿が見られる。しかし我々はこの話をもう少しまともに考えなくてはいけないだろう。「ひとつ、ふたつ、たくさん」という数え方の豊かで豪華な思考に包まれているではないか。考えてみれば、我々は「ひとつ、ふたつ、たくさん」という経済学を経験していないのである。

祭りの経済学がここにあると考えて、例えばAとBとが交易を行うと考えた時、両者とも交換できるものは決まりきったものしかない。珍しくも何ともないものをお互いに差し出して、めでたいめでたいと大騒ぎをする。これがお祭りであろう。そこには資本主義的生産とは全く異なる構造があった。

縄文の人たちはそんな決まりきったものをお互い取り替えっこするだけで満足していたのだろうか。変わったものは欲しくなかったのだろうか。縄文の文化だってムラごとに変ったものを持っていた。それは、歌や踊りであることは、前回示した通りである。だから歌や踊りは貴重品であった。

我々は現在の社会を構成している資本主義が今後変わらないと思っている。人類が生み出した経済システムの最後の形だと思っている。「ひとつ、ふたつ、たくさん」という経済で暮らしていければ、本当は楽しいのではないか。

文：宇野小四郎